



内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました

当院は、12月9日に最新の医療機器である内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ (Da Vinci X)」(以下、「ダヴィンチ」)を導入し、2023年2月に最初の手術を行いました。なお、南多摩保健医療圏の医療機関で初めてのダヴィンチ導入となります。

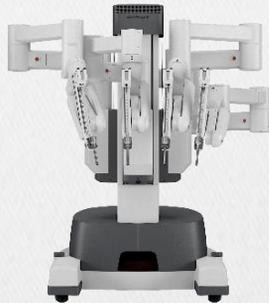
● ダヴィンチ/ロボット支援手術について

ダヴィンチは腹腔鏡や胸腔鏡などの鏡視下手術をサポートする医療機器で、ダヴィンチを使用して行う手術を「ロボット支援手術」といいます。

①ビジョンカートは内視鏡のタワーのようなもので、手術の様子がモニターに映し出されます。手術は、腹部にあけた5~6か所、5~12mm程度の小さな穴から、②パシエントカートのアームに取り付けたスコープと鉗子などを体内に入れて行います。執刀医は、③サージョンコンソールに座ってアームを操作し遠隔で手術します。



①



②



③

●ダヴィンチの構成

ダヴィンチは以下の3つの機器によって構成されています。

① ビジョンカート

モニター、電気メス、気腹装置などロボット手術に必要な機器

② パシエントカート

4本のアームで構成され、カメラ、専用の鉗子、縫合用の機器など装着するシステム

③ サージョンコンソール

執刀医がスコープや鉗子を操作するシステム

● ダヴィンチの機能

<広い可動域>

アームに取り付ける鉗子の可動域は非常に広く、540度もあります。人間の手首と比べると圧倒的に広く、これまでの手術では行うことの難しかった複雑な作業も可能となります。

<手振れ補正機能>

手先の震えが鉗子に伝わることを防ぐ「手振れ補正機能」がついているため、高い集中力が必要とされる細かな作業でも、より正確に、より安全に手術が行えます。

<3Dビジョン>

従来の鏡視下手術では、医師は二次元画像を元に手術を行っていましたが、ダヴィンチによるロボット手術では3D立体画像を見ながら手術が可能です。また、ズーム機能も搭載されており、術者は手術箇所を正確な距離で明瞭に視認することができます。

● 当院で対象となる疾患について

保険診療で実施が可能な手術は拡大傾向にあり、今後、当院におきましても新たな領域や疾患について拡充を検討していきます（下記は現在当院で対応可能な疾患・術式の一覧です）。

領域	疾患名	術式
泌尿器科領域	前立腺がん	前立腺悪性腫瘍手術
消化器外科領域 (下部消化管)	直腸がん	直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術、切断術）

● 診療科からのメッセージ

ダヴィンチを使用した前立腺がんに対するロボット支援手術は、アメリカでは約20年前から実施され、日本でも約10年前に保険適用となってから急速に普及し、現在は標準治療となっています。前立腺全摘術の腹腔鏡手術は国内でも行われてきましたが、非常に難しい手術手技のため、あまり浸透しませんでした。ダヴィンチは、手振れ補正機能や3Dビジョン、鉗子の広い可動域が備わっており、医師が一定のトレーニングを積むことで、これまでより高精度かつ安全に手術が実施できるため、国内外で多く行われています。

また前立腺摘除術は、開腹でも腹腔鏡でも術後の排尿障害に悩まされることが多いですが、ダヴィンチでは、高精度な手術が実施できることから、排尿障害の発生割合も抑えられるというデータが出ています。

近年、前立腺検診などで早期発見、根治が可能となってきた前立腺がんですが、ダヴィンチの導入でより患者さんの体に優しい治療が期待できます。PSA高値の患者さんなど、気兼ねなくご紹介ください。

泌尿器科部長 菅谷 真吾

消化器外科領域でのロボット支援手術は、2018年度に食道、胃、直腸が保険適応となりました。2022年からは診療報酬、学会指針により術者要件が緩和され、実施できる施設は増加してきています。従来の腹腔鏡手術は開腹手術に比べ、患者さんに対して低侵襲（体の受けるダメージが少ない）といわれていましたが、ロボット手術はそれに加えて術者にも負担が少ない手術となっています。

具体的にはカメラの画像が3Dでより良い視野を得られること、腹腔鏡手術では直線的にしか動かなかった鉗子の可動域が広がり、より人の手の動きに近くなったことなどです。そのため従来の腹腔鏡手術よりさらに安全で正確な手術を行うことができ、非常に有用であると思われます。

当院ではまず直腸がんを対象に導入いたしますが、今後は全結腸のがんにも適応を広げていくことを考えております。対象となります患者様がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

下部消化管外科担当部長 篠田 知太郎

院内研修の報告

テーマ 「余命3か月、がん終末期の選択」
 講師 立川在宅ケアクリニック 井尾先生

諸外国と比べると、日本は病院で最期を迎える方がはるかに多い中、立川市は在宅で看取られる方が多い地域です。患者さん自身や家族が、在宅ケアを望まれた時に、最期までその希望を支えてくれる在宅医療が身近にあるということは、とても大事なことだと実感しました。緩和ケア病棟に携わるスタッフとしては、患者さんが緩和ケア病棟を希望された時に、ここを選んでよかったと思える医療と環境を提供できるよう努めていきたいと思いました。

(参加人数：85名 緩和ケア委員会 主催)

2022年度 町田市民病院
緩和ケア病棟地域研修会

講師：立川在宅ケアクリニック
 理事長 井尾 和雄 先生

テーマ：余命3か月、がん終末期の選択
 ～緩和ケア病棟から在宅緩和ケア、どちらを選択すべき？～

日時：10月27日(木) 18:00～19:30
 場所：オンライン開催(Webex)
 対象：地域関係者および病院職員

締切：10月19日(水) 17:00まで

申込み：参加費・研修料は無料です。
 参加費・研修料は無料です。

【お問合せ先】
 町田市民病院 緩和ケア病棟運営委員会事務局
 TEL: (042) 722-2230 FAX: (042) 722-8558
 (内線7146・7147)

テーマ 「気になる！乳児院ってどんなところ？」
 講師 キッズクリニック智院長 渡邊智子先生

なかなか知る機会のない乳児院内の生活や親子支援について、事例を通し、子どもたちの取り巻く環境の厳しい現実を知りました。その一方で施設生活は行事などを大切に、一人一人の子供たちと向き合っている様子を垣間見ることができ、施設のイメージも少し変わりました。地域が一体となって、妊娠・出産・子育てに対する支援に取り組む必要性を改めて感じました。今後も医療機関・行政等が気持ちを新たに、より密な連携を行い、虐待防止に取り組んでいきたいと思えます。

(参加人数：120名 虐待防止委員会 主催)

2022年度 町田市民病院虐待防止講演会
乳児院ってどんなところ?

日時 2022年11月17日(木) 18:00～19:30

講師 渡邊 智子先生
 キッズクリニック 院長
 愛恵会乳児院 嘱託医

形式 会場・Webのハイブリッド開催
 【会場】町田市民病院 第2会議室(定員50名)
 【Web】Cisco Webex Meetings

対象 行政関係者・介護関係者・医療関係者

申込み方法：事前申込制
 QRコードにてお申込みください。
<https://www.google.com/maps/place/町田市民病院/@35.6833333,139.4583333,15z>
 申込み受付期間：10月17日(火)～10月26日(水) 17時迄

申込み完了後、招待状をお送りします。
 【備考】2022年11月17日(木) 17:00まで

主催：町田市民病院虐待防止委員会、後援：王子児童相談所
 協賛：町田市民病院 虐待防止委員会事務局 (虐待相談窓口) 大3・古栗
 TEL (042) 722-2230 FAX (042) 722-8558 内線7146・7147

テーマ 「病院と地域でつなぐ患者と家族の意思決定」
 講師 さんりつ皮膚科・在宅クリニック 矢野祖院長
 悠々会津田真理子 看護師・CM

病院の話し合いの中で、どのような経緯で現在の意思決定があるのかも情報提供があるとうれしいというお話もありました。意思決定は揺らぎ、様々な職種でつなぐ、リレーマラソンであるという矢野先生のお話も印象的でした。地域における患者・家族の意思決定支援の現状や事例、病院の立場で脇山医師、平田副看護部長からのお話、座談会を通して、地域連携の重要性を改めて認識しました。今後も地域との連携を大切にしていきたいと思えます。

(参加人数：95名 退院支援委員会 主催)

第2回 町田市民病院 退院支援委員会 研修会のお知らせ
病院と地域でつなぐ患者と家族の意思決定

日時 2023年1月26日(木) 18～19時

講師 さんりつ皮膚科・在宅クリニック 矢野祖院長
 悠々会 津田真理子氏
 町田市民病院 櫻本千恵子 副院長
 脇山茂樹 研修部部長(兼)

対象 退院支援に関心のある医療・介護従事者
 研修会は事前申込制となっております。
 お申し込みは右のQRコードまたは裏面FAX用紙にてお願いいたします。

町田市民病院 退院支援センター長
 町田市民病院 研修部部長(兼)

お申し込みは右のQRコードまたは裏面FAX用紙にてお願いいたします。

皆様のご参加をお待ちしております
 お問い合わせ：042-722-2230 (9時～17時)
 町田市民病院 庶務課 完井

皮膚科からのお知らせ ～患者様のご紹介をお待ちしています～

日頃より患者様をご紹介いただき、ありがとうございます。

皮膚科は常勤医師2名、非常勤医師2名による外来を行っています。

今年度は、医局の人事異動により、常勤医師の入れ替わりがありました。地域に根ざした診療を心がけてまいりますので、引き続き患者様をご紹介いただけましたら幸いです。

当院皮膚科では、アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎等のコントロール不良の患者様を中心に診療を行っています。

地域医療機関向けの専用予約枠もありますので是非ご利用ください。



2023年3月 外来担当医表

	月	火	水	木	金
1	貴志	貴志	貴志	貴志	貴志
2	橋本	橋本/小野田	橋本	橋本	橋本/田中

※ は地域予約枠です。

HCU（高度治療室）の開設準備についてのお知らせ

現在、当院ではHCU（高度治療室）開設に向けた準備を進めています。既に運用されているICU（集中治療室）、NICU（新生児集中治療室）に加えて、HCUを開設することで、更なる救急診療の充実を目指しています。開設時期など詳細につきましては、決まり次第ご報告させていただきます。

※HCUとは、急性期や重症の患者様を対象とした高度な医療、看護を提供する全科混合病棟です。

< 編集後記 >

テレビでもネットでも、再三に渡る日用品・食料品の値上げ、戦争、相次ぐ強盗や通り魔など暗いニュースばかり…。そんな世相(?)も影響してか、患者様から相談窓口寄せられるご意見も厳しいものが増えてきたような気がします。

ただでさえコロナで鬱屈した中、どのように心穏やかに毎日を過ごすのか、が自身の最大のテーマです。気分転換に〇〇(年齢秘)の手習いで新しくピアノを習い始めたものの、ちっともうまくならずにストレスが増すばかりの日々です(笑)。(T)